

第7回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 議事概要

日 時： 令和4年6月2日（木） 午前10時30分～12時00分

場 所： 白山会館2階 大平・明浄の間

出席者： 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会

小池由佳委員、佐藤由香子委員、佐野可寸志委員、鈴木孝男委員、
田村圭子委員、富山栄子委員、樋口秀委員長、柳沢厚委員

オブザーバー

安藤善紀（新潟県土木部都市局都市政策課長）

1 開会

2 挨拶

3 議事（意見交換）

（1）都市計画基本方針（案）について

（事務局） 資料説明

（樋口委員長） ありがとうございます。

皆様、お手元に資料1ということで取りまとめられた都市計画基本方針（案）をお示しいただきました。そして参考資料1で、私どもがこれまで6回にわたって議論してきたことと、それに対応して本編で修正いただいたことが参考資料1の左下、修正された部分のページ数等、ご説明いただきました。

右側のパブリックコメントで、4名の方からのご意見ということですが、かなり踏み込んだご意見がたくさんあるように拝察いたしました。今後の参考にされるというようなお話もありました。一部は本文ですとかイラストを修正されるというお話もございました。

皆様からご意見をいただきたいと思います。

（田村委員） 参考資料1のところの左側の2番の項目の4つ目の「災害リスクと土地利用（居住）規制をどうするかは慎重に考える必要がある」という、大きな問題を提示されたのかなというところで、その取り扱いにつきましては、津波防災まちづくり法などがあり、それは新潟市の場合は適用していないと理解しているが、そういったものを、どこかに補足的に書いたりする対応方法が一つと、もう一つはもう1段落増やして、こういったことも将来にわたっては考えていかなければいけないのではないかなというところとか、

日本の様子を見ながら新潟市としても対応していきたいというような、何か一言を入れる必要があるのかなと思いました。

それと、関連しまして防災の分野で、37 ページの3番のところに「地震・津波・水害・雪害」と37 ページの3段落目に書いてあるのですけれども、このグラフが実はこちら側の右の38 ページから始まるグラフは水害と津波しかないというのが不十分ではないかと思いました。地震については、この間、新潟県が新たな想定を出されて、その新潟市版を作るから今は示すことが出来る資料が無いのだと理解していますが、もしも無ければ代替として、「参考：新潟県」というものを載せておいていただいたら、地震はそれで結構だと思います。雪害に関しましては、新潟市の除雪の検証委員会に私も参加しているのですけれども、そちらに良さそうな、新潟市の雪の降り方が年により増減はありますが結局増えています、というグラフがあるので、それを載せていただくと、この4つは適切だと思います。

それから、それに対応して細かいことを言うと、本冊中の第4章のところに安全分野の記載がありますが、そこには地震と津波だけの記載となっています。「地震・津波・水害・雪害」の4つなのだったら、ずっと4つで記載した方が良いと思います。

議論としては、災害リスクと土地利用の規制をどういうふうここに書き加えるかということは、ほかの先生方にもご意見を聞かなければいけないかなと思うところと、グラフは可能であれば入れていただきたい。表現はぜひ修正していただきたいと思います。3点ございました。以上です。

(樋口委員長) 最初に口火を切っていただきまして、どうもありがとうございました。大変重要なご指摘だったと思います。事務局からは今の意見について何かありますか。

(事務局) ご指摘ありがとうございました。基本的に、その部分については対応させていただいて、私ども防災の部分のうちろの項目の中で、安心安全は絶対必要な考え方として分類させていただいているのですが、ご指摘のように最新のデータが用意できるものは、アップデートしながら工夫をしていきたいと思っています。ありがとうございます。

(樋口委員長) ありがとうございます。田村先生、水害ということなのですけれども、外からいっぱい降って、それが河川に行って、河川から溢れる水害もあるのですけれども、新潟の場合、ゼロメートルというか、内水というか、降った雨が溜まってしまうみたいなこともあるのですか。

(田村委員) あります。内水氾濫の想定、新潟市は内水氾濫の想定も、外水氾濫の想定もされていて、そういう意味では、委員長がまさにおっしゃるとおり、これがどちらなのかということを示されると良いと思います。これは多分、外水のことを書かれていて、内水は多分、土地が低いところはみんな真っ赤ということなので、載せようということであれば、専門分野を防災としている私の立場から意見すると、載せてくださいというふうに申し上げますけれども、どういたしましょうか。

(樋口委員長) ご判断は事務局にお任せしましょう。水害と一言で言っても対策がまったく違うと思いますので、堤防を固めれば固めるほど外水はいいかもしれませんが、内水の方は出ていかなってしまうので、対応のバランスが大変かもしれません。

(田村委員) 多分、記載として信濃川も入っているのではないかなと思って、最初は河川みたいなものを書かれて、それを重ね合わせたマップだということ、まず外水のほうに書いていただいて、あとは内水のほうは載せられるようであれば。全図はあまり見たことがないです。地域図しか見たことはないのですけれども、全体の図もあったんですね。

(事務局) そうです。いわゆるハザード情報ということで、学校区みたいなところでわりとピンポイントで出している情報はありますが、全域図にすると、基本的にはご指摘のように市全域が浸水するような形になってしまって、あまり活用していないとか公表していないのが実際だと思います。場所が分からなくて、ただ新潟市はほぼ色が塗られているというような図になってしまうので、そこを伝え方も含めて工夫をしていきたいと思えます。

(田村委員) きっと座長預かりになるかと思うので、もし載せていただいたら意見をさせていただければと思います。

(樋口委員長) ぜひ田村先生のご意見を参考にさせていただければと思います。ありがとうございました。

口火を田村先生に切っていただきましたので、回していく感じで、鈴木先生、いかがでしょうか。お気づきの点等、お願いいたします。

(鈴木委員) どうしてもやはり第3章のイメージパースのところになってしまうのですけれども、まずパブリックコメントでも、かなり市民の方々の関心は交通

のところ、環境のところ、脱炭素、車から公共交通へというようなところの関心の高さを改めて実感したところです。やはり文章というよりは、イメージパースはとても発信力があるというところで、大事になってくるなと思っています。

やはり都心エリア、拠点エリア、田園エリア、それぞれに市民の滞在時間をどうやって増やしていくかということが重要で、働くということであったり買い物ということであったり交流という視点が大事だと思っていて、どんどん外に出ていただいて楽しんでいただきたい、働いていただきたいというようなところを思っていました。

田園集落のイメージですけれども、この表現について、いろいろ思うところがあります。イメージパースの53ページ目では、「スマート農業」を強調されているところがありますけれども、稲作に特化しすぎている感があります。スマート農業、付加価値の高い農業など、それぞれの各区の特産品、果樹、農産物に力を入れて、高度化が求められています。そのイメージもあってもいいのかなと思いました。

それと、各区でマルシェがありますので、直売所も大事ですけれども、伝統的なマルシェも加えていただきたい。個性ある街並み、地域、歴史や文化を伝える伝統風景とセットになるかもしれません。これから書き足すのは大変かもしれませんが、その部分、もう少しあってもいいのかなというところが項目とも関連してございました。

そういった意味で、都心や拠点に住んでいる方々に来てもらう表現があっても良いと思います。あとは52ページの拠点のイメージが私自身は周辺の各区の中心部のようなイメージもあったのですが、沿岸部を描いているのが少し気になったところです。この絵はこれでいいと思いますけれども。あとは51ページの都心の部分で、やはり歴史を感じる都市景観という、「歴史」というところがどうしても弱いなと感じますので、本文のほうでどこかで強調していただくということも必要かもしれません。

また、イメージ内に文字が入っていますけれども、ここが本文のどこに連動しているか分かりづらいので、例えば、小さくでも本文の見出しの番号を記載するなど表現の仕方に工夫があっても良いと思いました。いずれにしても、最初に申し上げたとおり、パブリックコメントで指摘があった交通というところが十分に強調されていると思いますが、改めて重く受け止めたいことと、どんどん都心、拠点、田園の各エリアに人の動きが活発になるようなところを、うまく交通分野とセットで今回計画の特徴になっていけばいいかなと思いました。

(樋口委員長) ありがとうございます。大変重要なご指摘、ありがとうございます。た

しかに、新潟は果樹や畑作等もすごく盛んですから、イメージ図にもそういうものが少し入るといいかもしれませんね。

1対1のやり取りは大変かもしれませんので、皆様から一言ずつコメントをいただいたあと、一括して事務局のほうからお話しいただければと思います。順番にいつていきますので、安藤様は突然ということもあるかもしれませんけれども、お気づきの点など、お話しいただけますでしょうか。

(安藤氏) 私のほうからは行政の立場から申し上げますと、都市計画マスタープランはどうしても幅広い分野を網羅する関係で、一つ一つを丁寧な説明することが非常に難しいということは、作る立場からすると分かってはいるのですが、どうしても社会情勢等の変化がありますので、アップデートしなければいけない項目について委員の皆様方のご意見を取り入れられるものは取り入れていただきたいということが一つ。そして、県でも都市計画区域マスタープラン等を作成しておりますが、最近、田村先生からもお話しがありましたとおり、防災関係について非常に強調しなければいけない状況になっております。直接は新潟市には影響がありませんが、盛り土の関係の条例を県でも作っております。また国会のほうでも法律ができております。新潟市においては水害等に比べれば大きな問題になっていないので盛り込まれていないかと思いますが、もしも必要であれば、そういう面からも入れていただければなど考えています。私からは以上です。

(樋口委員長) 重要なお指摘ありがとうございます。新潟市はそんなに土砂災害等の盛り土等は大きな問題にはなっていないのかもしれませんが、そういう動きというものもあるということです。ありがとうございます。小池先生、お願いします。

(小池委員) この計画がこれから10年というスパンで見えていくという中で、悩みながらだったのですが、32ページのところの「価値観の多様化」のところの最初のところに「物質的な豊かさから、精神的・心の豊かさを重視する傾向」ではあったと思うのですが、今のこのコロナ禍の状況の中で、果たしてそれをこの10年間、やり続けることができる状況にあるのかということが正直、心配だなと思いながら読ませていただいていた。物質的な豊かさがあるの精神的・心の豊かさということが今、成立しなくなっている人たちが新潟市でもたくさん生じているという中で、まちづくりを進めながら、そこをどう整理していくのかということが心配になったところです。

それと、このテーマと、データとして出してくださっている保育所の割合が非常に高いとかというところが、どうつながっているのかがずっと把

握しきれなかったというか、都市の中で保育所の数がすごく多いことが価値観の多様化とどうつながっているのかが少し不明瞭だったので、もう少し言葉等を補足していただいたほうがいいのかと思いました。

都市づくりのキーワードとして挙がっているところで、公民連携・協働と入れていただいたのは、すごく先ほどの説明にもあったように、全体的にそれを入れていただいたのはすごくありがたいなと思う一方で、共生社会とか包括的な対応とかということは今、福祉業界の中で非常にキーワードになってきているので、もう少しここは何かいいワードはないかなと思いました。今日になって言っているのもどうかと思いますが、よろしくお願いします。

(樋口委員長) 可能な範囲ではご対応いただけるかと思います。本当にコロナ禍の中、お一人で暮らしておられる方がどんどん増えている中で、感染されたり濃厚接触に該当した方はなかなか生活が厳しくて、私どもの大学も感染者や濃厚接触者が出るのですけれども、なかなか一人ぼっちでさみしく思う人もたくさんいるかと思います。最初の32ページ前文のところは今後の10年、いろいろ変わるかもしれませんね。ありがとうございました。それでは、また事務局の方でご検討ください。続きまして、佐藤委員、お願いいたします。

(佐藤委員) 感じたことが2点あります。イメージパースのところなのですが、すごく楽しくて、見ている、すごく良い感じで分かりやすいパースができたなと思って見ていたのですが、例えば田園集落でもまちなかでも、やはり人が暮らすということには変わりないわけですから、常に医療と福祉と防災を意識していただければいけないと思いました。それで、例えばこのパースの中で、「地域の診療所」とか「まちの避難所」といったようなものが載っていたほうが良いと思います。例えば「安心・安全な歩行者空間」なんていうところをトコトコ歩いていったところに地域の診療所がここにありますよ、みたいなこととか、ここに何かあったときには避難所ですよという案内を入れてあったほうが、すごくリアルになって、都市マスはすごく現実味のある、考えられているなというふうに思えるのではないかと思います。それが1点。

昨日サラサラと読んでいた中で、とても建築の中でもすごく共感したのが17ページの「持続可能な都市づくり」とある2番目の丸「気候変動に伴う自然災害が顕著となり」ということは、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにするゼロカーボンシティというふうに出ていますけれども、私たち建築のほうでは、もう2025年に「ZEH」でゼッチと読むのですけれども、これはネット・ゼロ・エネルギー・ハウスを略した呼び名です。住ま

いの断熱性能や省エネ性能を向上して、さらに太陽光発電などで生活に必要なエネルギーを作り出すことによって年間の一次消費エネルギー量、空調ですとか給湯、照明、換気とかのトータルを概ねゼロ以下にする住宅というものを、もう義務づけのように2025年から推進されています。そんなところで住宅分野もカーボンニュートラル、地域型住宅グリーン化事業の推進が始まっています。ここはとても共感したところでした。

(樋口委員長) ありがとうございます。新しい住宅については、省エネがもう義務化されるということですので、それを取り込んで新潟市も都市全体のゼロカーボンシティを目指されるということは重要なことだと思いました。今ほどの佐藤委員のお話しなども、もしかしたら17ページに取り込めるかもしれませんね。あとは佐藤委員のお話にありました51ページからのイメージ図の中で、イメージ図そのものを変えるのは大変ですけれども、文字として今の医療、福祉、防災の関連は入れられるのかなと、お話を伺っていて思いました。ありがとうございました。では、富山先生、お願いしてよろしいでしょうか。

(富山委員) 気づいた点なのですけれども、まず参考資料2のところの「今後の都市づくりの視点」なのですけれども、①が「人口減少社会に適応する」で、中を読んでも理解できたのですけれども、これだけ読んでパッと理解するためには「人口減少社会に適応したコンパクトシティを目指す」のほうが、もしかしたらピンとくるのかなと思いました。

それから②の「人口減少を和らげる」というのも、これも中を読むと分かるのですけれども、人口減少を和らげるということは最初から、もう人口は増えないことを前提にして、少しでもいいから増えてほしいことなのだろうなと思うのですけれども、もう少し分かりやすく「人口増加に努める」とか、無理なのかもしれないのですけれども、そのほうが読んでいるほうとしては分かりやすいのかなと思いました。

参考資料2のA3の2枚を読んで、都市マスがパッと分かるという内容だと思えるのですけれども、そうするとWhy、What、Howで考えた場合に、Howが少し弱いのかなと思っていて、第6章の実現に向けた取組のところはHowだと思えるのですけれども、では、どのように実現していくのかというところで、主要なプロジェクト等があるのですけれども、では主要なプロジェクトがどれに結びついているのか。例えば、「目指す都市の姿の構造の実現に向けた考え方」は3つありますけれども、このどれがこのプロジェクトに該当するのかなとか、取り巻く状況、現状と課題ということで、これが課題で、だから都市づくりの視点が出てきているわけなのですけ

れども、それに紐付いて何をしていくのか、Howでプロジェクトがパーツと書いてあるのですけれども、どの課題をこれで解決しようとしていくのかということが結びつくような書き方をすると、よりストンと分かりやすいのかなと思いました。

将来イメージ図で、パブリックコメントで、新潟だけにあるもの、新潟が選んでもらえる理由を強く出さないと響かないとか、新潟らしさを感じられないなどの意見がありましたが、これはこれで非常によくできているとは思うのですけれども、若者に響くようにVRやメタバース等を使って若者が共感できるようなものを入れると、よりいいのではないかなと思いました。

(樋口委員長) ありがとうございます。最後の若者が取り組んでくれる、興味を持ってもらえるという視点は大事かもしれませんし、前半部分の経営的な部分もすごく重要だと思います。先生がお話しになった参考資料2のいちばん左下のところというのは、本編で言うと45ページのところなのですけれども、ここの文言をもう少し書いたほうがいいよということになりますかね。

(富山委員) 差し障りがないように書いてあるのですけれども、普通に読んでいる人としては、ちょっと分からない、響かないかと思いました。

(樋口委員長) ありがとうございます。45ページの5つの視点は、ここはすごく重要などころかもしれませんので、先生のご意見を参考にいただければと思います。ありがとうございます。佐野先生、よろしく願いいたします。

(佐野委員) 図や絵がふんだんで読みやすく大変良いと思います。細かい点なので、こう変えろというよりは、単なる意見と聞いていただければと思います。51ページに関して、交通で、タクシーとバスと車が走っていますが、これだと今と同じ状況なので、脱炭素を目指すのであれば、車を少なくしたり、BRTや、LRTを描いて貰えればと思います。

あとは今、東大通は8車線で広すぎるので、車の車線を減らして、歩行者や自転車に割り当てるといった話が進んでいると思います。それに合わせた形で、将来に向けて少し夢があるものを書いていただければと思います。

あとは今回の話で23ページの「市内の道路・交通ネットワーク」の表で、本当に細かいことで恐縮ですけれども、最初の1位が一般国道16号、保土ヶ谷バイパス等があるので、同じような形で、2番目だったら一般国道8号、新潟バイパスなのか新新バイパスなのか分かりませんが、市民の方が分かりやすい名称をつけていただいたほうが良いと思います。

あと、国道番号と通称が記載されているので、例えば5番の大阪中央環状線というのは名称で、正式名称は大阪府道2号なので、形式を整えたほうが良いと思います。

8番目の一般国道23号のあとの「豪」は誤植だと思います。基本的にはこれでよろしいかと思います。

(樋口委員長) 先生、ありがとうございました。たしかに未来の交通はどうなっているのか、少し分かりにくいところはあるのですけれども、せっかくここまで素敵な絵が描かれていますので、ぜひ先生のご意見をご参考にさせていただければと思います。ありがとうございました。名称のチェックもありがとうございます。

続きまして、柳沢先生いかがでしょうか。

(柳沢委員) この期に及んでという感じで言いにくいものだけでも、可能な範囲でご検討いただければと思うのですけれども、3点だけ申し上げたいと思います。

先ほどから話題になっているイメージ図ですけれども、これはやはり市民の人の声が非常に率直で辛辣ですよ。要するに、いろいろなことが書いてあって、見ていくと視点が定まらないのですよ。これに対する一つの方法は、いちばん下に1行で「基本方針が目指す方向を分かりやすく示した」と書いてあるのだけれども、こうではなくて、きちんとストーリーを持ったコメントを、この脇かどこかに書くことです。要するに、この図はこういうことを狙ったものですよということを書けないようでは、まずいと思うのです。この種の図では全方位的にいろいろなことを書きたくなってしまふのだけれども、そうすると返って分からないので、ある程度、大事なことに的を絞ってストーリー性をもって書くと。そのときに、ほかの漏れていることについて少しエクスキューズのコメントを入れておいたほうが良いと思うのですけれどもね。これはこういうことで分かりやすくするために省略してある、ということを書き添えてはいかがかと思います。

それから2点目は、先ほど富山先生からHowのところが少ないというお話で、私は仕事柄、Howしかやってこなかったんで、Howのところはどうしても気になるのですけれども、第6章の最初のところに3つの制度とあって、これは前から言っているのだけれども、なかなか直りにくいから直らないのでしょうかけれども、3つのうちの後ろ2つは割りとは方向はきちんと示されているのです。だけど1番目のまちなかを対象とした制度というものは、「こういうことが考えられる」と書いてあるだけで方向性が何も無いのです。これは普通、受けるとすれば都市再生、都市再開発方針みたい

なものとは別に作られて、その中でこういう制度の使い方の具体的な場所に落ちたようなことが書かれると思うのだけれども、そういうものが別のところできちんと用意されています、という説明ができれば、これでもいいと思います。このままだと何かこれは、こういう制度を上手に使いますと言っているだけなのです。どう使うかは何も書いていないのです。

それから3点目は、主要プロジェクト、これは非常に大事だというか、先ほどの富山先生のご指摘のように、どの課題を解決するためのプロジェクトなのかということが分かるようにしておくことは非常に大事です。そのうえで、ここに書いてあることそのものは割りと方向性だけ書いてあるのですが、具体的な市役所の担当課とか、あるいは民間のNPOとの連携みたいなこともあるのでしょうか、要するに誰が何をやるかということがきちんと施策的にあって、これは今進めていることをこの表現は指しているとか、これは来年か再来年予定していることの呼び水になっているとか、そういう具体的な措置につながることによって、きちんと裏打ちされていないとまずいと思うのです。ある程度あるのかもしれないし、もしもないなら、そういうことをきちんと作ったうえのプロジェクトでないと、プロジェクトにならないと思うのです。以上、3点申し上げます。

(樋口委員長) ありがとうございます。イメージ図のところは多分、これが出たときに、市民の皆さんが結構いろいろな議論になるのだと思うのですけれども、それこそがこの都市マスの意義かもしれません。これをもとにいろいろディスカッションしてもらおうと、そこからスタートになっていいのかなとは思いますが、でも思いが伝わらないといけませんので柳沢先生のお話のとおり、都市計画基本方針が示す方向性というものを、いちばん上に説明はあるのですけれども、この説明は全体の説明であって、それぞれの説明ではないので、そういうことを入れられるといいなということでした。先生のご指摘を伺って、私もそう感じました。

都心と言いますか市街地の更新のほうは、思いというものが伝わってくるといいなと改めて思いました。ありがとうございます。

一通り皆さまからご発言がありましたけれども、私からは1点だけよろしいでしょうか。全体をとおしてですけれども、47ページに「都市づくりの基本的な考え方(理念)」として、いちばん上に「全市レベルで持続的に発展する都市」と書かれています。多分、キーワードは「発展」というこの文字のような気がします。今まで人口増加のときは、どちらかという市街地を拡大や、新しい拠点をどんどん郊外に広げていくことが発展とイコールになったような気がするのですけれども、人口減少社会の中で、発展という考え方について、何をもって発展とするのかということが、どのまちも大

変ですし、こと新潟市に至っては新潟県内の県庁所在地であり、県を引っ張っていかれる立場の中で、この二文字をどう市街地の中に落とし込んでいくのかということが、この都市マスに求められますし、またそれに市民の皆さんが共感し共鳴し、歩みを揃えていかれることなのかなと思います。そのときに拠り所となるのが今ほど議論になっていた 51 ページ、52 ページ、53 ページのこの絵なのかもしれないです。何かその辺が、佐藤さんがおっしゃったような医療、福祉、防災という守りというか安心安全につながる部分と、あとは市民の皆さんがやはりこの新潟に住んでよかったなというような生活の充実感みたいなものが合わさると、もしかすると「発展」という言葉につながるのかなと思いました。この二文字について、全体を見通していただきながら、一本筋が通るような形にさせていただけるといいかなと思いました。私からは以上です。

そのほかに先生方、いかがでしょうか。田村先生、いちばん最初だったので、言い残されたことがあれば、お願いします。

(田村委員) 新しいことではなくて、先ほどのことを少し調べていましたら、新潟市は洪水ハザードマップというものと浸水ハザードマップというものを作っていて、洪水ハザードマップがいわゆる外水氾濫で、浸水ハザードマップがいろいろと法律上のことがあって、これはいわゆる水防法で言われる内水氾濫マップではないのだけれども、浸水マップという下水道が氾濫した場合のマップを作っているということが分かりました。そういう意味では委員長ご指摘のとおり、洪水マップと浸水マップの両方に触れる必要があるのかなと思います。ただ全図が載せられるかどうかは少し手間等もあるので、そこはご検討いただいて、各区版であれば存在しているので、その説明を案として都市計画課宛てに送らせていただこうと思います。補足情報でございました。以上です。

(樋口委員長) ありがとうございます。では、ご対応が可能ということですね。ぜひご検討ください。

そのほか、鈴木先生よろしくお願いします。

(鈴木委員) 151 ページの「農村集落の振興」ですけれども、全体の表現から「田園集落の振興」のほうがいいのかなと、検討いただければと思います。できればここの実現に向けたプロジェクトのところで、都心のまちづくりとか鳥屋野潟プロジェクトとか人中心のまちづくりにはイメージ図、参考図が載っていますので、この農村集落振興のところも参考図があると非常にビジュアル的に住民の方々に伝わっていいと思います。もしも可能であればイメ

ージが伝わるような表現を少し追加いただけると良いと思います。

(樋口委員長) ありがとうございます。農村集落の振興は、すごく重要だと思いますので、ここはぜひとも素敵な図が入るといいですね。ありがとうございます。

そのほかに、いかがでしょうか。非常に細かいことですが、いちばん最後のページ、資料1のいちばんうしろの参考-5と書いてあって、「英数字」と書いてあるのですが、ここは英数字のところ、「にいがた2km(ニキロ)」のところはニキロと書いてあるのですが、他も読み方を書かれたらどうかと思いました。Ma a S(マース)とか、何と読むのだろうかと思われる方もおられるかもしれません。D I D(ディーアイディー)というのも何か、と気になる方はいるかと思います。ご判断はお任せいたします。

そのほかは、よろしいでしょうか。ありがとうございます。かなり完成度の高い資料1、今回の素案ですが、委員の皆様から最終回ということたくさん意見が出ましたが、内部でのご検討のほうをぜひよろしく願います。

何かいくつかコメントをいただけるようなことはありましたでしょうか。

(事務局) ありがとうございます。様々ないただいた中で、反映できるものもかなり多かったと思っておりますので、例えば園芸產品の話ですとか、いわゆる稲作だけでなく園芸產品の強化も打ち出していますので、その辺はご指摘のとおりだと思いました。いわゆる策定時点で、ありがたいことに2年近くいろいろな議論をさせていただいた部分の中で、やはりいろいろな状況が変わってきているのだろうと思います。この時点と、いわゆる時間の変化で、出来上がった時点も、来年ではもう古くなっているものもありますが、どうしてもこういう計画は定めとして、検討時点と公表時点の時間差が出てまいります。まだ少し時間がありますので、最新にアップデートさせていただきたいと思っています。

あとは基本方針の役割等という、いわゆるこういったプロジェクトを掲載させていただいた部分がありますが、具体的に、何をいつまでにどうするのだというところの部分は、どうしても書きにくいところが計画の分けというところの中です。ただ、あまり方針だけというのも具体性が無い、ということでプロジェクトのような形で記載をしておりますが、そこは引き続き検討しながら、絵もご指摘の部分もありましたので、工夫をしたいと思います。ありがとうございます。

(樋口委員長) ありがとうございます。よろしいでしょうか。

皆様からのご意見、ありがとうございます。ご指摘いただいた点への対応につきましては、今後、一堂に会する機会はこれが最後ということになっておりますし、委員の皆様もお忙しいと思われまますので、私と事務局に一任していただければと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。基本的にはこんなふうにさせていただきたいということで、皆様に情報というかご連絡はさせていただきますが、決定につきましては、ご一任いただければと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

それでは、議事(1)を終了させていただきまして、議事(2)「その他」に移りたいと思います。事務局よりご説明をよろしく願います。

(2) その他

(事務局) 机上配布資料(写真募集結果の速報)の概要説明

(樋口委員長) ありがとうございます。とても素敵な写真がいっぱいありますね。何かご意見やご感想はございますでしょうか。

(田村委員) これは一般の方たちが活用できるようになるのでしょうか。例えばパソコンに取り込んで使いたいとか、そんなふうになって、それが例えばご意見等をいただいたりするような仕組みに発展していくと、すごく楽しくなっていくなというふうに思います。

(樋口委員長) 本当ですね。ありがとうございます。応募された方への画像の使用権みたいなものは、どんなふうになっているのですか。

(事務局) 応募の規約に書いており、著作権自体は応募者の方に帰属する形になるのですが、都市マスの周知ですとか製本、そういったものに関する使用権といったものは市に帰属する形で整理させていただいております。

(樋口委員長) 素敵な写真ですものね。私たち Zoom 等でいろいろなところで話をするときに、こういうものを背景にすると、すごく良いと思います。最初のアイズブレイクではないのですけれども、それだけで10分くらいしゃべれたりします。

(田村委員) そうですね。新潟市全員でやっておけば、みんないろいろな写真を使うと思うので、すごいインパクトになりますよね。

(樋口委員長) そうですね。非常に素敵なお意見ですので、またご参考にしていただければと思います。

ありがとうございます。写真は、これでよろしいですか。素敵な写真ですので、ぜひ積極的にご活用いただければと思います。ありがとうございます。

それでは、「その他」は以上とさせていただきたいと思います。今回、都市計画マスタープラン策定検討委員会は最後となりますので、皆様から最後、一言ずつ感想と申しますか、ご意見をいただければと思います。それでは佐野先生、口火を切っていただけてよろしいですか。佐野先生から今度は反対側から回っていきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

(佐野委員) 交通でいろいろパブリックコメントに出ている、パブリックコメント以外にも車ではなくて公共交通を使う、それは皆さんやらなければいけないということは重々承知していると思いますが、なかなか財源もないので遅々として進まないのが現状だと思いますけれども、今、新潟市が都市再生緊急整備地域に指定されて、容積率の増分があると認識しています。この容積率の増分をうまく使う、ということを少し考えていただきたいと思います。

三方よしという言葉がありまして、地主さんが儲かることも必要だし、利用者の利便性を高めることも必要だし、市が財源を得て、それを何かに使うということも非常に重要なことだと思います。東京都の附置義務駐車場というものがありますが、あれも附置義務の決め方がまずいということはあるのでしょうかけれども、駅の近くで電車で来る人が多いところも、少し離れたところも同じ割合で縛りがあるので、駅の近くでは駐車スペースが余ってしまいます。その場合、駐車場を減らす代わりにお金を出すという仕組みがあって、そのお金の一部は公共交通なり自転車なり、そういったものに使っている仕組みは東京でもありますから、この増加した容積率に伴う利益が、単に地主さんだけに行くのではなくて、公共交通に充てる仕組みを是非作って頂きたいと思います。

念頭にあるのは「にいがた2km(ニキロ)」です。この計画でも「売り」になっていますが、歩いて楽しいはいいのですけれども、2キロもありますし、冬、萬代橋を歩いて楽しく渡るのはなかなか難しいと思います。

BRTやLRTの建設資金の一部に都市再生緊急整備地域によって生み出された財源を積極的に使うことも一つの方策ですし、都心部の「にいがた

2 km (ニキロ)」は無料で乗降できるようにするというのも可能かもしれませんが、ぜひ前向きに検討していただければと思います。

(樋口委員長) ありがとうございます。ぜひこの都市マスに基づいて、「にいがた2 km (ニキロ)」も含めて交通の問題、ぜひ佐野先生にご意見をいただきながら、また充実させていただければと思います。ありがとうございます。では、富山先生、お願いいたします。

(富山委員) 都市計画マスタープランができたら、印刷の量はあまりしないで、スマホでサクサクと誰でも見られるような形にするというのではないかと思います。

まちづくりについては、ここには入っていないのですが、ウクライナ侵攻で、これからまたエネルギー価格が上がって、食べ物が足りない時代になってくると、新潟は米がとれますので、そういう点では非常に小麦の代替という点でも優位かと思います。あとは若者が魅力を感じるには、産業があって、企業に来ていただいて、税金をしっかりと納めていただくような人をいかに増やしていくのかと、そういう点ではVRやマンガ、IT関連等、新潟は強いところがありますので、そういうソフトの部分ももう少しPRしていくといいのかなと思います。若い人に聞くと新潟はいいけれども、遊びがないとかと言って、それが札幌等と違うところだという若者も結構いますので、そのように感じました。ありがとうございました。

(樋口委員長) ありがとうございます。それでは、皆様からお一言ずついただこうと思います。佐藤委員、お願いします。

(佐藤委員) 今回、この都市マスの委員会に参加させていただいて、中央区をはじめ8つの区の特徴や良さを改めて知ることができました。今の写真もそうですけれども、その8つの区の良さが今は点と点ですごく光っているような状態だと思うのです。それが線となってつながるためには、私たちここに参加させていただいて、いろいろ議論して、内容も濃く整理されてきているのですけれども、新潟市民ももっと行政と協働できるような取組みも今後は必要になってくるのかなと思いました。新潟市民の都市づくりに対する理解と関心がとても重要だと思います。そのためにも都市計画に関する情報等の公開や提供をもっと積極的に進める必要があるのかなと思いました。今、このようなコロナ禍ですからワークショップなどの開催はなかなかできないと思うのですけれども、市民の声をもっと聞こえてくるような、そんな議論ができる場があれば、本当に市民の視点に立った整備も進められるのか

なというふうに感じました。

例えば、新潟市役所ホームページを開いたときに、都市計画に関する箇所が光って、開いてみたくなるような、そんな仕掛けがあって、ちょっと開いてみようかなと。そして開いていったら、こんなことをやっていて、こんなふうになっているんだ、というような、それが分かればどんどん浸透していくのかなと感じました。ありがとうございました。

(樋口委員長) ありがとうございました。続きまして、小池先生、お願いします。

(小池委員) ありがとうございました。都市計画マスタープランの先ほどの5つの視点の中の1点目、2点目にもありましたけれども、人口減少と社会減、出生数の減少というものは新潟市において非常に大きな課題になっているというのは今年度、新しいデータでも指摘されているところです。その中で、まちづくりをどうしていくのかと。今までと同じ方法でやっていくということは本当に難しい状況になっているということを、この計画策定を通して改めて感じさせていただきました。その中で、私たちの生活をどう維持していくのか。先ほどのイメージパースを見せていただきながら、この中で例えば子どもたちや子育て家庭、先ほど話した高齢者や障がいのある方たちの生活というものはどんなふうに見えてくるのだろうと思いつつ見せていただいたところです。

日常を守るということと、もう1点、災害や、先ほども少し出たコロナ禍みたいな病理疾患が蔓延していった中でも私たちの生活を守ることができるまちづくりは一体どういうことが求められていくのか。これはまちづくりというハード面からになると思いますが、それがどれだけ反映されていくのかなということを感じているところです。

ただ全体としては、非常に大事な観点をたくさん盛り込んでいただいたなというふうに思っていますので、今、示されているような観点をさらに具体的にどう落とし込んでいけるのかなということは今後、関心を持って関わっていければと思っています。ありがとうございました。

(樋口委員長) 重要なお指摘、どうもありがとうございました。それでは安藤さん、お願いします。

(安藤氏) 今日の委員会での皆様のご意見、また県での計画にも役立てていきたいと考えています。また、新潟市さんの都市計画マスタープランが実現できるように、県としても一緒になって協力していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

(樋口委員長) ありがとうございます。ぜひともご支援よろしくお願ひいたします。続きまして、鈴木先生、お願ひします。

(鈴木委員) 最近の情報で健康生活習慣実行ランキングがあって、新潟が最下位に近くて、しかもだんだん下がってきている状況がありまして、これはかなり深刻かなと思っけています。ランキングのデータですので、どこまで信用度があるかという問題がありますけれども。そしてまたテレビの情報で、ラーメンの消費率が全国で札幌を抜いて新潟が1位になって、これは喜んでいいのかどうなのかというところもありまして、健康というところで、都市計画マスタープランでも、そこにどうアプローチできるかは、新潟市にとって、ひょっとしたら大きな課題かもしれないと最近のニュースで感じました。

この計画の策定の進め方というところだと、現場を皆さんと一緒に歩いたり見たり、今日は若い人というキーワードがあったと思ひますけれども、その若い人にお話を直接お聞きしたり、市民にお話を直接お聞きしたりというところが、なかなかできなかつたのが非常に残念かなと思っけています。多様な時代との連携とか協働というのは、これから非常に重要になってきますので、コロナ禍であっても何か工夫してしっかり声を聞いて、それをまた計画に反映できていたかどうかは、反省するところがありました。

若い人のトレンドをどれだけ取り込めてるかが、これから重要だと思ひますので、できれば学校に出前授業で都市計画マスタープランをレクチャーするなどし、学生にも関心を持っていただいて、実際の動きでフィードバックできるように取り組んでいただければと思ひます。そしてまた地域拠点はどうしていくかということが重要かなと思ひます。各区の中心地、あるいは生活拠点もそうかもしれませんが、やはり豊栄や、亀田の商店街というところを見てもかなり寂しい状況です。ここのテコ入れを、どうしていったらいいのかというのは、各区のこれからの展開に期待するしかないかもしれませんが、ぜひ中央区だけではなくサポートいただければなと思ひました。

(樋口委員長) ありがとうございます。佐藤委員も各地の魅力が詰まっているというお話でしたけれども、ぜひ周辺の地域の魅力も高めてほしいです。どうもありがとうございます。では田村先生、お願ひいたします。

(田村委員) 2点です。一つ目は、やはり先ほどあつた災害リスクと土地利用についてです。防災と都市計画は復興の現場において、すべてなくなつてしまった状態で新しいまちを作る際には協力していくのですけれども、一方で、発災前

の、実際の土地利用では規制にもつながりますので、実は親和性が悪く、日本ではうまく進んでいないということが実態でございます。土地が狭いということもあるのですけれども、今後は人口も減ってくる中、どういうふうにまちを形作っていくかということに、もっと防災で頑張っていかなければいけないのだなということ、皆さんとの会議の中を通してますます自覚しました。うまく貢献できたかどうか分かりませんが、そういったところが一つ感想としてございます。

もう1点は、科学技術イノベーション基本計画という、日本の科学技術をどう進めていこうというところの話なのですけれども、そこに今、Society5.0 という、新しい社会をどうするかというのは実は2つの目標があって、一つは国民の安全と安心を確保する、持続可能で強靱な社会、要はサステナブルで安全安心というものと、もう1点は一人一人の多様なしあわせ、ウェルビーイングということを実現しようということが、これから流行ってくるような予感がしております。なので、恐らく多様な主体が暮らせるような世の中になっていきますので、そういった意味で、一人一人のしあわせというものを考えながら今後はまちづくりを進めていくような必要性が出てくるのではないかと思います。なので、かなりいろいろなことを聞き取って、市民の皆さんのご要望を最大限活かしながら、いろいろな主体がそこでハッピーになるというふうに次の都市計画を考えていくようなことになるのかなと昨今、感想を持っておりますので、申し上げました。大変勉強になりました、教えていただくことばかりでございました。どうもお世話になりました。ありがとうございました。

(樋口委員長) こちらこそ、どうもありがとうございました。柳沢先生、よろしくお願ひします。

(柳沢委員) さんざん意見を言いましたので、あんまり言うことはないのですけれども、一つだけ。マスタープランというのは、床の間に飾る掛け軸という側面があるわけですね。掛け軸としてちゃんときれいでなければいけないということで。でもきれいにできたらお終いというのは今まで多かったのです。だんだんいろいろな都市でも掛け軸だけではだめだなど、どうやってそれを現実のアクションにつなげていくかということを考える必要があるということで、今日のことと言うと第6章を充実させるということが割りと多くなってきたと思うのです。要は第6章を具体的に、現場は担当課まで視野に入れてやるということを実際に考えていただきたい。そのときに役所だけでやるのではなくて、企業、市民の団体、あるいは市民の個人もあるのですけれども、そういう外側の人にどうやってうまく付き合っていく

かということを中心に大きなテーマにして第6章を進めていただきたいなと思います。

(樋口委員長) ありがとうございます。柳沢先生もいろいろなところに関わっておられて、その重要性をご指摘いただきたいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

では私で最後です。先日、新聞にハワイで暮らす方の記事が載ってしまって、ハワイというのはすごく賃金が安くて大変で、すごく掛け持ちをされているそうです。一方で、住居費がすごく高く、食費はラーメンに至っては15ドルで約2,000円くらいでしょうか。だから家賃は高い、給料は安い、食費も高い。でもそこに住んでいることに私はハッピーだと書いてありまして、やはりそこに住んでいることのステータスというか、それを感じるから、ここからほかに行きたくないというふうに書かれていました。新潟もどんどん若い人が外へ出てしまいますけれども、何か新潟に住んでいることの良さみたいなことをみんなが感じられるために、この都市マスはすごく重要だなと思いました。これを、私も総合計画策定のお手伝いをするようになりましたけれども、ぜひ伝えていきたいなと思っておりますので、事務局の皆様、ぜひ先頭で頑張っていただければなと思いました。

委員の皆様、2年といいますか、足掛け3年度にわたって都市計画マスタープラン策定検討委員会にお付き合いいただきまして、どうもありがとうございました。皆さんの本当に重要なご意見で、ここまで素敵な計画になったように思います。最後になりましたけれども、皆様のご協力に重ねてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

4 閉会

【配布資料】

- 第7回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 次第
- 第7回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 出席者名簿
- 第7回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 配席図

資料 1 都市計画基本方針【案】

参考資料 1 これまでの振り返りとパブリックコメント等でいただいた主なご意見

参考資料 2 都市計画基本方針（全体構成）【案】